

令和3年度事業報告

1. 概要

我が国は、人口に占める65歳以上の高齢者の割合（高齢化率）が既に29%に達し世界に類を見ない超高齢社会を迎えており、少子高齢化の進行に伴い、将来に必要な労働力人口が減少することが懸念されています。

高齢化、少子化が進む中、日本経済の活力を維持していくためには、働く意欲のある高齢者が、長年培ってきた知識や経験を活かし、年齢にかかわらず活躍し続けることができる「生涯現役社会」を実現することが不可欠とされており、就業を通じて高齢者の福祉増進に資するシルバー人材センター事業の重要性と地域社会の期待はますます大きくなっておりま

す。しかしながら、令和3年中は3回にわたり緊急事態宣言が出されるなど、引き続き新型コロナウイルス感染症に明け暮れた一年でした。

当センターにおきましても、前年度に比べ契約金額、就業件数ともやや回復したものの、就業機会の減少により十分な就業が確保できないなど大きな影響を受けました。

また、運営面におきましても、昨年に引き続き定時総会の規模縮小や各種講習会、入会説明会の開催中止を余儀なくされました。

このような状況の下、当センターは、コロナウイルス感染拡大防止や健康確保に努めながら、地域社会の一員として、可能な限り就業開拓活動及び普及啓発活動に取り組み、高齢者の活躍の場を提供するとともに、ボランティアなど様々な社会活動に参加することで、生涯現役社会を目指し、各事業に取り組んでまいりました。

令和3年度の事業実績においては、「契約件数」および「契約金額」は公共事業、民間事業とも前年度を上回り、コロナ前の令和元年度並みの水準に戻ったこともあり、単年度収支は243万円の黒字となりました。

また、会員数においては、年度末で424名と前年度に比べ2名の増となったものの、コロナ禍において十分な活動ができず、全国シルバー人材センター事業協会が策定しました「会員100万人計画」の令和3年度目標数値の達成には至りませんでした。

以下、令和3年度事業の概要について報告します。

2. 主な事業内容

(1) 就業機会の提供

令和3年度の就業件数は、延2,638件で前年度に比べて71件の増となりました。

また、就業実人員では355人の会員の方々が就業されました。

(2) 会員の増強と普及啓発活動

広く市民、事業所等にセンターの活動や事業内容を周知するため、下記の活動を実施しました。

- ① 11月21日に、「ボランティア清掃」として阪急西向日駅周辺の清掃を行い、シルバー事業の普及啓発活動を実施しました。
- ② 「植木剪定講習会」「生活支援講習会」の終了後、参加者を対象に「入会説明会」を開催し、新規会員の獲得に努めました。
- ③ 1月から3月にかけて「お友達紹介キャンペーン」など各種キャンペーンの実施により新規会員の獲得に努めました。
- ④ 広報むこう、「向日市くらしの案内」への広告掲載により、センターの周知及び入会促進に努めました。

なお、向日市まつり会場での啓発活動、老人福祉センター出張入会説明会、「60歳以上の方の仕事の説明会」は、中止となりました。

(3) 安全・適正就業の推進

- ① 事務所において「安全標語」を掲示するとともに、会員が安全の意識を常に持ち、より一層安全就業の充実を図るため、安全委員が就業現場をパトロールし、事故防止に努めました。
- ② 安全・適正就業委員会において、安全就業DVDを視聴し、安全就業について意見交換を行いました。
- ③ 除草作業において、刈払機を安全に取り扱うための知識や操作方法の習得を目的として、11月29日に京都府農業機械士協議会から講師を招き「刈払機の安全講習会」を実施、会員8名が受講しました。
- ④ 熱中症予防対策として、冷却タオルの配布や作業時間の短縮、複数人作業の徹底を図りました。
- ⑤ 適正で公平な就業を推進するため、一人でも多くの会員に就業の機会を提供できるよう未就業会員の解消に努めました。
- ⑥ 作業中や就業途上の事故が増加していることから、会報誌に事故の状況などを具体的に掲載することで、会員への注意喚起を図り、事故の未然防止に努めました。
- ⑦ 刈払機など機械・器具の整備点検を定期的に行い、機械のトラブルを低減させることで、安全で快適な作業の確保に努めました。

- ⑧ 新型コロナウイルス感染症対策として「感染予防対策および感染拡大の防止」について会員に周知するとともに、事務所において、アルコール消毒液の設置など基本的な対策のほか、換気の励行、密にならない工夫など取り組みました。

(4) 講習会、研修会の実施

高齢者の雇用就業機会の確保を促進することを目的に、京都府シルバー人材センター連合会と連携して、6月21日、22日の2日間「植木剪定講習会」を、また、10月19日、20日の2日間「生活支援講習会」を開催しました。

この他、差別のない明るい社会の実現を目指し、乙訓2市1町を対象に開催された「人権研修」に会員・役職員23名が参加しました。

なお、「接遇マナー講習会」「交通安全講習会」「脳活性化セミナー」「高齢者のスマホ教室」は、中止となりました。

(5) 独自事業の取り組み

平成29年度より市の委託を受け、高齢者の日常生活を支援する「地域支援合いヘルプサービス事業」に引き続き取り組みました。

また、年末に、向日市社会福祉協議会と協力し、生活支援を必要とする高齢者世帯のニーズへの対応として実施していた「歳末おかたづけ応援隊事業」は中止となりました。

(6) 組織体制の充実

- ① 全国シルバー人材センター事業協会や京都府シルバー人材センター連合会が実施する研修・講習会にオンラインでの受講を含め積極的に参加しました。
- ② 会員への業務連絡など、スマホ等を利用したショートメッセージ(SMS)送信サービスを開始しました。
- ③ 山城地域拠点シルバー人材センター連絡会において、月1回職員研修会を実施し、他センターとの意見交換など、職員の資質向上に努めました。
- ④ 除草、竹やぶの手入れ、施設の消毒等を行う職群班を増設するなど、活発な職群班活動に努めました。また、シルバーの会報や就業募集チラシの配布など地域班の活用により就業開拓、就業支援に努めました。